



アリウムギガンテウム

88 編の端書きは 歌。賛歌。コラの子の詩。指揮者によって。マハラトに合わせて。レアト。マスキール。エズラ人ヘマンの詩 と、長いものです。マハラト は女声、ソプラノの調べ、レアト は楽器と推測されています。マスキール は瞑想的な詩とされています。最後に エズラ人ヘマンの詩 とあり、コラの子の詩 とタブってしまいます。コラの家系に繋がる人物という意味でしょうか。エズラ人ヘマン は、知恵においてソロモンに次ぐ賢人達の一人であり、神殿の詠唱者として選ばれた人です。詩編にはヘマンの賛歌はこれ一篇です。

88 編の冒頭に、通常の賛歌と同様に 主よ、わたしを救ってくださる神よ／昼は、助けを求めて叫び／夜も、御前におります(2) と救いを求めて、昼夜、神に祈りを捧げています。

次に わたしの魂は苦難を味わい尽くし／命は陰府にのぞんでいます(4) と、苦難の生涯を経て、死の床にいると訴えています。人は死んで、墓に葬られ、塵に帰る存在ですが、死者の国 陰府 が待っています。詩人は苦しむまま 陰府 に下るとすれば、そこは 穴 であると記しています。穴に下る者のうちに数えられ(5) とあるように、汚れた者 として 陰府 に落とされようとしていると言います。この 穴 では あなたはこのような者に心を留められません。彼らは御手から切り離されています(6) と、神との関係が切れていると言っています。地の底の穴 は 影に閉ざされた所、暗闇の地(7) であり、あなたの憤りがわたしを押さえつけ／あなたの起こす波がわたしを苦しめます。〔セラ(8) と、光も希望もなく、苦しみと絶望しかありません。神との関係がなくなっただけではなく、あなたはわたしから／親しい者を遠ざけられました。彼らにとってわたしは忌むべき者となりました(9) と、人間関係も失ったと言います。穴 でどんなに神に呼びかけても、神は答えられず、恵みを与えられることはない。また神の慈愛、真実が 穴 では語られることもない。

詩人は再び、主よ、わたしはあなたに叫びます。朝ごとに祈りは御前に向かいます(14) と祈っています。詩人は わたしは若い時から苦しんで来ました。今は、死を待ちます(16) と言い、最後に 今、わたしに親しいのは暗闇だけです(19) と、神から離され、家族友人もなく、暗闇の中にいると結んでいます。このような悲惨な孤独の訴えが賛歌といえるのでしょうか。驚きます。

これは別の見方をして、絶望し、神を見失った者の悲劇を、戒め、諭しているのではないかと思えてきます。ダビデは あなたはわたしの魂を陰府から引き上げ／墓穴に下ることを免れさせ／わたしに命を得させてくださいました(詩編 30:4) と、絶望から希望へと変えられたことを何度も賛美しています。主イエスが わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。(マタイ 16:18) と言われたように、信仰に生きる者は 陰府 に勝つ力をあたえられると約束されています。

『讚美歌 21』には 88 編の関連讚美歌はありますが、特定の句を関連させていて、詩編の内容とは合致していません。ジュネーブ詩編歌は、リュート、ルネッサンスギター、ベース・ビオラ・ダ・ガンバの合奏で、心に沁みるように、ゆったりと静かに演奏しています。